

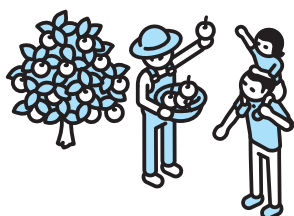
CAMPUS NEWS

vol.117



撮影：信州国際音楽村

CONTENTS



SPECIAL FEATURE 特集

内定者インタビュー / 地域協働型教育の実践

REGULAR CONTENTS

地域 × 研究 | 長野大学 研究紹介

【夢をかなえた先輩たち】

内定者インタビュー



長野県庁（行政職）

社会福祉学部 長野県諏訪清陵高等学校出身

山崎 百華さん

生まれ育った辰野町でも少子化が進み、小・中学校時代の地区の同学年は私を含めて2人だけでした。しかし地域の方々が遊んでくれたり、気にかけてくれたおかげで寂しい思いもせず成長でき、将来は地元をはじめ長野県に恩返しがしたいと思い社会福祉学部に進学しました。ゼミでは睡眠が人々の生活の質に大きく関わると学び、いつかは「住民がよく眠れる長野県」を実現したいと考えています。これまで学んできたことや郷土愛を糧に、長野県の人々が安心して暮らせる環境を守れるよう仕事に励みたいです。



東日本旅客鉄道株式会社

環境ツーリズム学部 私立飯田女子高等学校出身

小原 知恵さん

ゼミでは、小諸市の歴史的街並みを保存するためのまちづくりについて学びました。その一環として参加した「城下町フェスタ」では、地元の子どもたちに参加してもらえよう、駄菓子の販売や輪投げなど昔ながらの遊びを体験できるよう企画しました。企画運営の代表として活動する中で、物事をさまざまな観点から捉える力を養いました。就職後も鉄道を通して広がるまちづくりに貢献ができるよう、地域の方たちに寄り添い、現場で活躍できる人材になりたいです。



株式会社長野こまち

企業情報学部 長野県上田染谷丘高等学校出身

中村 咲季さん

絵や書道が得意で、中学時代は広報委員会に所属していたことからデザインに関心をもちました。デザインスキルだけではなく、お客さま視点に立って考える力も身につけたいと経営学の専門ゼミに入り、自ら考えて行動する力を身につけました。学生時代に習得したデザインスキルや、ゼミで培った、お客さまに伝えるための資料制作スキルを活かしたいと考え、出版社を志望しました。入社後は、雑誌を通して読者に長野県の魅力を届けたいです。



オルガン針株式会社

企業情報学部 韓国 清州金泉高等学校出身

イム デイルさん

高校の時に日本語を学んだことで興味を持ち、日本への留学を決めました。入学当時は会話も聞き取りもできず苦労しましたが、日本人と韓国人が交流するサークルに所属したことで友人ができ、日本語も上達し、さまざまな人々との交わりを通して視野を広げるきっかけにもなりました。就職先は学生生活で愛着を深めた上田市を拠点としている点や、グローバルに展開している点に魅力を感じ希望しました。大好きな上田の地で、世界と日本をつなぐ営業職をめざし、これからも頑張りたいです。



株式会社長野銀行

企業情報学部 長野県上田東高等学校出身

田崎 光貴さん

ゼミではQRコードを活用するプロジェクトに取り組み、自動販売機に災害時の避難ルートを伝えるQRコードを付けて、観光客や外国人など多くの方に活用してもらうアイデアを考案しました。また、委員会やサークル、アルバイト、インターンシップなどさまざまな人と関わることで、相手を思いやり相手の立場に立って考える力が身につきました。卒業後は生まれ育った長野県に貢献すべく、お客さまのニーズにしっかり耳を傾け信頼関係を築ける銀行員になりたいです。

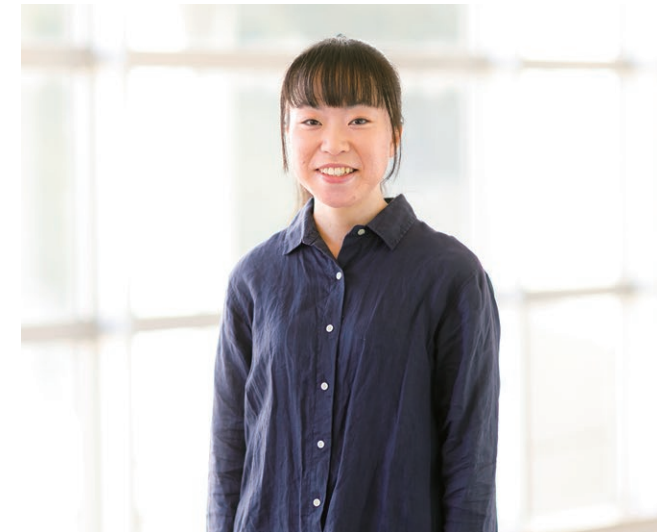


株式会社星野リゾート

社会福祉学部 長野県豊科高等学校出身

坪田 理良さん

大学生活では、新入生が参加するオリエンテーションの企画運営スタッフを務めました。当初は自分に自信がありませんでしたが、この活動を通して相手の立場に立って全力で取り組むことができる自分自身に気づき、それが参加者の笑顔につながることを実感し自信を持つことができました。星野リゾートのインターンシップでは、お客さまへのおもてなしの仕方や、さまざまなことに挑戦できる社風に魅力を感じ就職を強く望みました。今後も、自分の長所を活かしたおもてなしができるよう仕事に励みたいです。



一般財団法人 脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院

社会福祉学部 福島県立白河高等学校出身

國分 千穂さん

福祉と地域の連携について深く学びたいという思いと、祖父が入院した際に親身になって対応してくれた医療ソーシャルワーカーに憧れたことから、長野大学への進学を決めました。手話サークルでは、聴覚に障害のある方たちと手話で交流したり企業や地域の方に手話を知ってもらう活動に取り組みしました。卒業後は患者さんやその家族が望む生活に近づけるよう、病院内外の関係機関の方たちと連携し協働しながらサポートできる医療ソーシャルワーカーをめざしたいです。



松本ハイランド農業協同組合

環境ツーリズム学部 長野県松本美咲タヶ丘高等学校出身

武田 匡平さん

高校時代にオーストラリアで日本とは異なる観光資源に感動したのがきっかけで、観光や地域について学べる大学を選びました。上田市のわがまち魅力アップ応援事業の採択を受けて「信州国際活動チームSIAT」を立ち上げ、上田市塩田地域の方と外国人をつなげるイベントの企画や運営を行いました。そのなかで自ら率先して考え、行動することの大切さを学ぶことができました。大学や海外で得た視点や行動力を活かし、地域にとどまらず外国の方にも松本の魅力ある農業を伝えていきたいです。



4年間のキャンパスライフで先輩たちは何を学び、何を見つけたのか。
就職活動を終えて、これから社会に羽ばたいていく学生たちに取材をしました。

地域協働型教育の実践

地域の課題に 考える力と想像する力で立ち向かう 足腰の強い人になる

長野大学の教育の特徴の一つに「地域協働型教育」があります。
これは地域住民や企業などと協働しながら、自分事として地域にある課題に向き合うもので
学生たちはこうした経験により、地域から求められる人材へと育っていきます。
今回は実際に行われている特徴的な活動を紹介します。



File-1

企業情報学部
石川義宗ゼミ

【課題】
林業や
木工文化への
興味関心の希薄化



【学び】
企業情報学部の
地場産業学習と
クラフトデザイン



木材の良さを伝え
ものづくりへの
関心を育てる
木育ワークショップ



日本は先進国の中でも上位に位置する森林大国です。しかし、日本で使用されている木材は安価な輸入木材に押され、国産の木材はなかなか流通していません。また、私たちの生活の中でも時代の移り変わりとともに林業や木工文化に対する興味関心の希薄化が指摘されています。石川ゼミでは、上田市発祥の「農民美術」など各地の地域文化や地場産業の研究をしており、このような現状に危機感を持ち学生とともにその解決策を考えています。

子どもの頃から木材を身近に感じ、その魅力や特性を伝える「木育」に注目し、学生が地域の木工職人と協同して近隣の幼稚園で木育ワークショップを行いました。このワークショップは、さまざまな木材に幼少期から触れて木材の種類を「学ぶ」だけではなく、その木材を組み合わせておもちゃを作る「ものづくり」につなげることで、子どもの創造力や発想力を養うことも目的としています。学生がサポートしながら、子どもたちは表現力が豊かで、まるで実験でもするかのように夢中になって組み立てていました。

石川准教授は、「創造力や発想力はものづくりの原点です。幼い頃から体験する木育を通して、ものづくり文化が豊かな上田市の産業への興味関心につながるよう期待しています。」と話してくれました。

学生の声

私自身も幼い頃に枯れ木や落ち葉などを活用したリースづくりを体験したことがあります。今思い返すと、この体験を通してものづくりの楽しさが芽生えるきっかけになったのだと思います。今後は、木工文化をより身近に感じてもらうためにも木育活動に取り組みながら、木材活用の可能性も追求していきたいです。

企業情報学部2年 保田 浩希さん

File-2

環境ツーリズム
学部
松下重雄ゼミ

【課題】
中心市街地の
活性化への
対応



【学び】
環境ツーリズム
学部のまちづくり
マネジメント



まちなか活性化
プロジェクト



少子高齢化が急速に進展する地域社会では、これまでとは異なった新たな価値観にもとづいて、まちなかに求められる機能・役割・サービスなどの社会的側面や土地利用・環境デザインなどの空間的側面を作りかえていく必要があります。

地域協働をテーマにしている松下ゼミでは、地域における持続可能なライフスタイルをいかに構築し、新しいまちなか像の提案を実証的に研究しています。具体的には、上田市の中心市街地にあり市内5大学が連携して活用する「まちなかキャンパスうえだ」を拠点に、地域の魅力ある資源を発信する情報誌づくりやまちづくりワークショップの開催、地域のNPOや企業へのインタビューなど、さまざまな活動を商店街の方や地域住民の方たちと行っています。昨年から実施しているまち歩きイベント「グッジョブタウン」では、小学生とその親が地元商店街を巡り、職業体験を行う

ことができます。これは地域が学びのキャンパスになることによって、郷土愛を育むきっかけになればという思いも込められた体験型のイベントです。

地域イベントや環境整備活動は、社会実験的に学生と地域の協働で行っていますが、地域が主体的にまちづくりを行うことも必要不可欠です。そのために、地域と学生とが一体となり持続可能なまちづくりをめざしていきます。

学生の声

昨年の「グッジョブタウン」の職業体験場所はひとつの商店街のみでしたが、今年はさらに4か所を追加して開催すべく準備をすすめています。小学生にとっては普段よく通る商店街でも、入ったことのないお店もあるかと思えます。職業体験という視点を変えることにより訪れやすくし、商店街ならではの地域の方々の温もりも体感してもらいたいです。

環境ツーリズム学部2年 手塚 優里さん

File-3

社会福祉学部
端田篤人ゼミ

【課題】
住民主体の
支え合いシステムの
構築



【学び】
社会福祉学部の
ソーシャルワーク
理論



上田市
武石地域での
地域福祉の実践



社会福祉学部で学ぶソーシャルワークとは、誰もが住み慣れた地域で「ふだん」の「くらし」の「しあわせ」が実現できる社会など、一人ひとりの個性や多様性が尊重される社会づくりをめざすことです。何らかの困りごとを抱えた人やその家族の相談に乗り、必要な制度やサービスを紹介したり暮らしやすい地域づくりをめざしたりと、実践に基づいた学問であり専門的活動です。

端田ゼミでは、メゾ（組織、施設）・マクロ（制度、政策）レベルでのソーシャルワークの実践をテーマに、主に上田市武石地域で地域福祉の活動に取り組んでいます。武石地域は、住民同士が支え合い特色ある地域ケア活動が展開されてきた地域です。学生は住民主体で運営する高齢者サロン「武石の縁が輪」や地区の伝統や文化の継承をめざす「武石風土つなぎ隊」の活動に参加し、住民との対話やイベントの企画立案への参画を通して地域福祉の基盤づくりを学んでいます。住民にとっては当たり前の地域資源も、若者視点でその価値が見直されたり、学生がコーディネーターとなって住民同士がつながったりするきっかけにもなっています。参加する学生の輪も年々広がっているため、今後も継続して地域資源の発掘と発信に力を入れていきます。

学生の声

住民の方からの声を直接聞き、その地域にしかない空気を肌で感じることによって、心から「自分事」として現状を捉え自分から地域の方々に歩み寄ることができました。住民の方との会話は地域資源を発掘するきっかけでもあり、社会人の先輩でもある地域の方から文化や歴史を学ぶこともでき、私自身の学びの場でもあります。

社会福祉学部4年 柳澤 美咲さん

地域 × 研究

長野大学では、「地域社会との密接な結びつきにより学問理論の生活
長野大学の教員は、この理念のもと地域社会の日々の暮らしを支える

化をめざす」という建学の理念を掲げています。
研究を行っています。



企業情報学部 鈴木 誠 准教授 【担当講義】キャリアデザイン論、若者と労働、中小企業論 他

人事制度の分析を通して 日本的雇用システムを探る

現代の日本企業において、年功賃金や終身雇用は崩壊したとされていますが、時を経て何がどのように変わったのか、あるいは変わっていないのかを明らかにすることが大事です。このような観点から、私は日本的雇用システムと労使関係をテーマに研究しています。働き方や雇用のあり方を定める社会システムのことを雇用システムといい、経営者と労働者の関係のことを労使関係といいます。そして、雇用システムの制度的背景は企業の人事制度であるといえます。

私は、経営者と労働者の異なる利害が調整されていくプロセスに着目しています。とりわけ日本を代表する企業の一つである三菱電機の事例を取り上げ、経営環境の変化と人事制度改定に焦点をあてた考察をしています。この研究からは、戦後の日本企業における人事制度の歴史的展開と、労使関係が織りなす社内秩序が明らかとなってきました。

社会に出たから生きる経営と労働の知識

人事管理と労使関係の双方を学ぶことは、社員のモチベーションの維持・向上をいかに図るのかについて自分なりの考えをもつことにもつながります。これは、社会に出た時に一人ひとりが理想とする働き方を実現するという非常に難しい課題を解決する糸口となります。

理想とする働き方は人それぞれですが、社会的・組織的役割を周囲から与えられるのではなく、自分自身でつくっていくことが大事です。主体性をもつことは仕事のやりがいを見出し、自らのキャリアを設計していくことにもつながります。社会や組織の中で自らの役割を全うし、自己実現するためにも、大学時代に経営と労働の知識を学ぶことは非常に意義があるといえます。

経営と労働の実態を知るために 質的調査法を習得

経営と労働を学ぶために、ゼミでは特に対面的な質的調査法を重視しています。なぜなら、経営と労働という異なる側面の実態を課題探索的に知ることができるからです。そのためのツールとして活用しているのが上田市の商店街を対象にしたタウン誌の作成です。

このタウン誌は、企画立案から取材の交渉、インタビューの実施まで学生自ラ行い、商店街の紹介だけではなく街に生きる人から直接情報を収集し、魅力的な人の紹介をします。学生たちは、取り組みを通じて経営と労働に関する実態を直接見聞きし、視野を広げ、さらには潜在的な課題を見出すことにつなげています。さらに学生たちはアルバイト等だけでは知り得ることのできない労使関係の重要性を、地域をフィールドとして体感しながら学んでいます。

鈴木誠准教授からのメッセージ

経営者と労働者の異なる利害をいかに調整するかは、労使関係を学ぶ上で非常に重要なポイントです。私は、学生たちが経営と労働に関する調査研究の手法を習得することによって労使関係という窓から社会を分析する目を養い、課題の発見と解決ができるようになってほしいと考えています。そして、社会参加した際には自らの役割を全うし、自己実現をしてもらいたいと思っています。



社会福祉学部 鈴木 忠義 教授 【担当講義】社会保障Ⅰ・Ⅱ、低所得者に対する支援と生活保護制度 他

生活困窮者の役に立ちたいという想い

小学生のときに母子家庭の餓死事件のニュースに接し、豊かな社会の日本にも貧困問題があることに衝撃を受けました。この事件をきっかけに「貧困」を他人事ではないと感じようになり、将来は生活で困っている人の役に立ちたいと思い、大学では社会福祉学を専攻しました。

大学時代に社会福祉を学んでいくなかで、貧困問題を生み出す社会のあり方に問題意識を持つようになり、ホームレスの方々への訪問活動や聞き取り調査などに参加しました。当事者との関わりを通して、生きづらさを抱える人々の思いに触れることができました。

見えない「貧困」を理解する

私の研究は「日本における『貧困』の実態と対応する制度のあり方」をテーマとしています。「貧困」は「恥ずかしいこと」とか「自己責任」という考えを持つ人が少なくないと思いますが、全ての人にとって他人事ではない社会問題として理解することが重要ではないかと考えています。

長野県はホームレスの数は多くありませんが、見えない貧困問題は存在しています。私は上田市の生活困窮者支援団体の生活相談ケース記録の分析に関わりましたが、住む家はあるけれども心身の不調などで職を失ったり、多重債務に陥るなど複合的な生活課題を抱えるケースが見られました。2015年から生活困窮者自立支援法が施行され、長野県内の自治体の相談窓口にはこうした生活に困窮する人からの相談が多数寄せられています。私の研究では、目に見えにくい「貧困」を可視化するとともに、よりよい対策を検討していくことを通して、こうした問題の解決に貢献していきたいと考えています。

一人にしないために居場所を地域につくる

貧困問題の解決をめざすうえで、誰でも参加できる「居場所」が重要な役割を果たすと考えています。そこで、ゼミでは「子どもの貧困と居場所づくり」をテーマにしています。「子どもの貧困」に関する文献や資料を読んでディスカッションをするとともに、上田市や長野市での子どもの学習支援や子ども食堂など「居場所づくり」の活動に参加しています。活動では、学生がスタッフの一員として子どもたちの自主学習のサポートや遊び相手などを行っており、地域と協働した環境整備の実現につながっています。また、これらの取り組みを踏まえてゼミ主催の成果発表会を企画し、学生の立場から「子どもの貧困」の現状について多くの人々に伝える機会を設けています。

「貧困」は身近に存在していますが、多くの人は気付かないでいるのが現状です。こうした見えない「貧困」の存在に一人でも多くの人が気付き、自分に何ができるかをみんなで考えていくことが求められています。

鈴木忠義教授からのメッセージ

福祉のさまざまな問題に関心を持ち、そして自分自身に何ができるかを考えることが大切です。福祉を利用する人々の暮らしに対する想像力を養うとともに、「他人事ではない」という意識を持ってほしいと思います。自分や家族、親族が当事者となり、福祉制度を利用するとき、どのような制度であれば利用しやすいのか、どのような社会であれば暮らしやすいのかを考えていきましょう。

上田の名所と長大生

信州国際音楽村は、上田市丸子地域にある文化施設で、年間を通じてさまざまなコンサートやイベントが開催されています。「ホールこだま」は木の温もりがあり、あたたかい音色を奏で、「パノラマステージひびき」は烏帽子岳や浅間山をバックにした迫力ある野外ステージがあり、心豊かな時を過ごすことができます。



— 表紙の長大生 —

木内 直哉さん 企業情報学部 2年
(長野県上田染谷丘高等学校出身)

木内さんは、経営学の専門ゼミに所属し文献を通して理論を学びとともに、実在する企業と連携しながら経営分析を行っています。また、今年度のオープンキャンパスでは、学生スタッフの2年生リーダーとして活躍しました。自身もオープンキャンパスで所属したいゼミを決めたこともあり、参加者が学びをイメージできる思いやりをもった対応は頼もしかったです。

上田 采佳さん 社会福祉学部 3年
(富山県立南砺福野高等学校出身)

上田さんは、「地域と福祉をつなきたい」という思いから長野大学に入学しました。地域が抱える課題を自分事として捉え、日々福祉の視点に立ちながら解決の方向性を考え、現在は長野県が推進している農業と福祉のつながりについて研究をすすめています。いつも笑顔が絶えない上田さん、ぜひ地域に寄り添うことのできる社会福祉士をめざしてください。

長野大学キャンパスニュース

CAMPUS NEWS vol.117

発行：2019年10月
長野大学アドミッションセンター運営委員会
〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1
TEL：0268-39-0020
mail：kouhou@nagano.ac.jp
ホームページ：www.nagano.ac.jp



学校推薦型選抜(推薦入試)

募集人員	願書受付期間 (必着)	試験日	試験科目	試験会場
社会福祉学部 45名	2019年 11/5(火) } 11/13(水)	1次選考 11/23(土)	「国語」(国語総合)	本学
環境ツーリズム学部 23名		2次選考 12/7(土) 12/8(日)	面接	
企業情報学部 23名				

※学校推薦型選抜の募集人員には、上田地域定住自立圏域特別枠、長野県内高校在籍者特別枠があります。

社会福祉学部	上田地域定住自立圏域特別枠 15名	長野県内高校在籍者特別枠 20名
環境ツーリズム学部	上田地域定住自立圏域特別枠 8名	長野県内高校在籍者特別枠 7名
企業情報学部	上田地域定住自立圏域特別枠 8名	長野県内高校在籍者特別枠 7名

※詳細については、学生募集要項でご確認ください。

一般選抜

試験区分	募集人員	願書受付期間 (消印有効)	試験日	試験科目・配点	試験会場
前期	社会福祉学部 前期:45名 中期:30名	2020年 1/27(月) } 2/5(水)	個別学力試験を課さない	大学入試センター試験の結果で判定 【社会福祉学部】 ・「国語」(200点)必修 ・「外国語」(200点)必修 ※英語は250点を200点に換算します。 ・「地理歴史」、「公民」、「数学」、「理科」の受験した科目の中から上位2科目(100点×2=200点)。 なお、同一教科の2科目でも有効とします。 「理科」については、「基礎」を付した科目については2科目で1選択とします。 計4科目 計600点 【環境ツーリズム学部】【企業情報学部】 受験した科目を100点満点換算し、上位4科目(100点×4=400点)を活用します。4科目の中の上位2科目をそれぞれ2倍して200点満点とし、残り2科目をそれぞれ100点満点とします。なお、同一教科の2科目でも有効とします。 「理科」については、「基礎」を付した科目については2科目で1選択とします。 ※国語は200点を100点、英語は250点を100点(英語以外の外国語は200点を100点)に換算します。 計4科目 計600点	—
	環境ツーリズム学部 前期:32名 中期:25名				
公立大学中期	企業情報学部 前期:32名 中期:25名	2020年 1/27(月) } 2/5(水)	3/8(日)	大学入試センター試験 受験した科目の中から上位4科目(100点×4=400点)。なお、同一教科の2科目でも有効とします。「理科」については、「基礎」を付した科目については2科目で1選択とします。 ※国語は200点を100点、英語は250点を100点(英語以外の外国語は200点を100点)に換算します。 計4科目 計400点 個別学力試験 ・「国語(国語総合)」 ・「英語(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ)」、 「数学Ⅰ(A)」の2科目から1科目選択 計2科目 計200点 大学入試センター試験と個別学力試験の合計点で判定 計6科目 計600点	本学 松本 長岡 東京 福島 名古屋 富山 岡山

※大学入試センター試験実施日 2020年1月18日(土)・19日(日)

※詳細については、学生募集事項でご確認ください。

インターネット出願のご案内

すべての入試区分において
インターネット出願を
行います。



・パソコン
・スマートフォン
・タブレット から
出願できます!

◆インターネット出願の特徴

📄 願書取り寄せ不要

インターネット出願は願書の取り寄せが不要です。出願はホームページのインターネット出願ページから行ってください。学生募集要項は長野大学ホームページから直接ダウンロードできます。

🕒 24時間出願可能

インターネット出願中は24時間受け付けています。入学検定料は、コンビニエンスストア、クレジットカード、金融機関ATM[Pay-easy]、ネットバンキングでのお支払いが可能です。

📋 出願時のミス防止

インターネット出願は画面表示に従って必要事項を入力するだけです。もし記載ミスがあっても自動で入力内容がチェックされますので、記入漏れの心配がありません。

※インターネット出願完了後、志願票を印刷して必要書類とともに提出してください。
すべての手続きがインターネット上で済むわけではありませんのでご注意ください。